

## 子牛のコクシジウム症について

繁殖農家にとって子牛は貴重な財産です。健康な子牛を育てるために牛の病気を知ることはとても大事なことです。今回は、子牛の重要な病気である下痢症の原因の一つであるコクシジウム症について説明します。

### ▶ コクシジウムとは？

コクシジウムは、原虫と呼ばれる寄生虫の仲間です。非常に小さく子牛の腸管内に住み着きます。成熟したコクシジウムは、オーシスト（図1）と呼ばれる子孫を産み、そのオーシストに汚染された飼料などを別の子牛が摂取することで感染が広がります。オーシストは、環境や薬剤に抵抗性が強く、効果のある消毒薬は限られます。

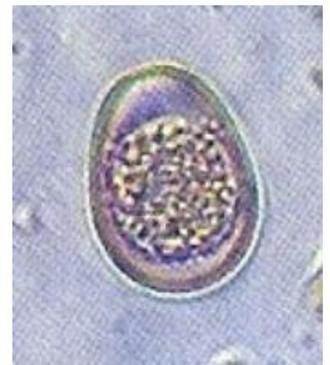


図1：オーシスト  
(短径約15 $\mu$ m)

### ▶ 症状は？

短い期間で急激に発症する**急性型**では、主に1か月齢から1歳未満で水溶性の下痢や血便（図2）を呈し、脱水や食欲不振がみられ、重症化すると起立不能に至り死亡する場合があります。

また、軟便や下痢が持続し、元気消失や発育不良となる**慢性型**もあります。



図2：血液の混じった糞便

### ▶ なぜ下痢をするの？

コクシジウムは、感染した子牛の腸管粘膜の中で成長し、その過程で粘膜を破壊するため下痢や血便を引き起こします。

## ➤ 対策は？

### まずは予防！

- ①牛舎内に持ち込ませない
- ・専用長靴の使用
  - ・導入牛の隔離・観察

- ②敷料の交換、牛舎の洗浄・消毒など日常の衛生管理にて牛舎内のオーシスト数を減らす。

### 有効な消毒方法として

長靴や牛房の消毒にはオルソ剤や石灰乳を使用。また、加熱（80℃で1分）による消毒も有効。

### 治療・予防薬の投与

サルファ剤やトルトラズリル製剤等の投与（動物用医薬品の使用については、農場毎の発生状況や飼養状況によって適切な投与時期等が異なりますので、獣医師に相談のうえ実施してください。）

昨年度、当所における子牛の下痢症に関する病性鑑定依頼は18件であり、そのうち3件でコクシジウムの感染が確認されています。コクシジウムの対策には、日々の観察による早期発見・早期治療が重要です。

## 死亡牛の適正処理について

畜産農業において発生した動物の死体は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）で産業廃棄物に定められています。産業廃棄物は適正な処理※が義務付けられておりますので、家畜の飼養者の皆様におかれましては、飼養している牛が死んだ場合には県内の化製場への迅速な搬入をお願いします。

※死亡獣畜取扱場以外の施設での処理は禁止（例：自己所有地での焼却や埋却など）

## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ	H5N5	台湾(10件)	家禽	令和2年(2020年)7月23日 ～令和2年(2020年)8月15日
	H5N8	ロシア(2件)	鶏・ガチョウ・アヒル	令和2年(2020年)7月28日
	H5	ロシア(1件)	家禽	令和2年(2020年)8月11日
ASF		韓国(38件)	野生イノシシ	令和2年(2020年)7月31日 ～令和2年(2020年)8月25日
		ロシア(63件)	豚・野生イノシシ	令和2年(2020年)7月7日 ～令和2年(2020年)8月26日
		ウクライナ(5件)	豚	令和2年(2020年)8月3日 ～令和2年(2020年)8月22日

令和2年(2020年)8月31日現在